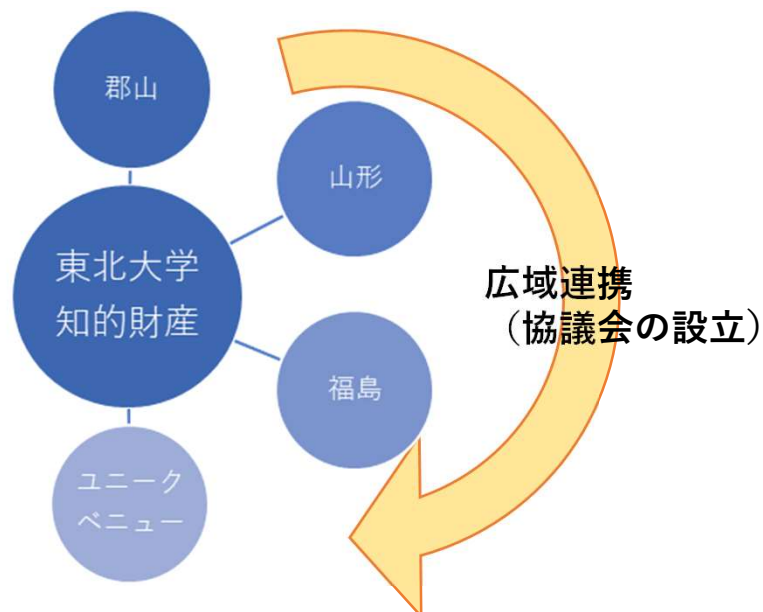


観光庁「海外からのミーティング・インセンティブ旅行誘致に向けた地域連携支援事業」実施報告 国内唯一の国際卓越研究大学「東北大学」と連携した仙台モデルコースの造成

申請者：仙台広域M・I誘致協議会（主管：（公財）仙台観光国際協会）



■本事業の狙い

仙台市におけるM・I誘致の課題：

「東北大学との連携プログラムの必要性」「東北のゲートウェイとしての仙台のイメージ作り」

▶仙台広域での取り組み拡大

⇒「仙台広域MI誘致協議会」設立

▶国内唯一の国際卓越研究大学である「東北大学」を核とした知的資産の活用を行う

⇒仙台市内・仙台広域の知的資産と東北大学の連携によるM・Iコンテンツ造成

当モデルコースでの実施内容

東北大学概要説明 & 片平キャンパスツアー

災害科学国際研究所
展示物説明 & プレゼンテーション

3GeV高輝度放射光施設
NanoTerasu見学

震災遺構仙台市立
荒浜小学校見学

MI誘致における東北大学の重要性

●東北大学の三つの理念「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」

→教育・研究・社会との連携の境界を越えて共創を図る

①教育：多様性...日本初の女子大学生の誕生

②研究：社会価値を創造

③社会との連携：民間および自治体等からの寄附を受けて創設・発展

●各キャンパスでの世界トップレベル研究の推進：

材料科学、スピントロニクス、未来型医療、災害科学など

片平・星稜・川内・青葉山キャンパス～市街中心部330万㎡の共創空間
課題解決の本丸「サイエンスパーク」の整備

多岐にわたる専門分野・トップクラスの研究者がいる東北大学だからこそ提案できる企業との連携。
東北大学の理念における、民間・社会との連携の姿勢は魅力的＝企業とのマッチングにつながる。

「海外からのミーティング・インセンティブ旅行誘致に向けた地域連携支援事業」実施内容① 東北大学についてのプレゼンテーションと片平キャンパスツアー



【実施内容】

- 東北大学の概要についてプレゼンテーションの実施
 - ・三つの理念「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」
 - 東北大学の産学官連携の姿勢
 - ・各キャンパスの説明：片平/星稜/川内/青葉山/新青葉山
 - 世界トップレベル研究の推進が行われている
 - ライフサイエンスキャンパス/東北メディカル・メガバンク計画
 - 災害科学国際研究所
 - 国際集積エレクトロニクス研究開発センター CIES
 - 「サイエンスパーク」の整備
- 東北大学キャンパスにおいて、産学官が結集して、大学と共に社会価値創造を行う共創の場を整備

■ 片平キャンパスツアー

- ・「魯迅の階段教室」にご案内：展示物の説明を聞いたあと、教室に案内。教室内でも引き続き説明を聞き、その後教室内の写真撮影タイムとした。
 - ・片平キャンパスの散策
- 最新の研究施設としての側面のみならず、歴史的建造物も多く見ることができる片平キャンパスを山田教授にご紹介いただきながら巡った。

【参加者からの声】

- ・専門的な内容を聞く前に概要を聞いたことで、その後の行程での学びが深まった。
- ・教授が直接キャンパス内を紹介してくれるというのは貴重な機会だった。

実施行程

10:00 -	11:30	東北大学全般についてプレゼンテーション
11:30 -	12:00	魯迅の階段教室を見学
12:00 -	12:50	昼食
12:50 -	13:10	説明を聞きながらキャンパスの建物外観など見学
13:10 -	13:45	星稜キャンパス、川内キャンパスを車窓から観光しながら次の目的地（青葉山キャンパス）へ

「海外からのミーティング・インセンティブ旅行誘致に向けた地域連携支援事業」実施内容②

東北大学災害科学国際研究所での専門家による説明



実施行程

13:45 -	14:15	1階展示物案内・説明
14:15 -	14:45	専門家による説明・ディスカッション
14:45 -	15:00	グラングラン体験
15:00 -	15:15	青葉山キャンパスから車でナノテラスへ
15:30 -	17:00	ナノテラス見学

【災害科学国際研究所を訪問先とした理由】

同研究所では東日本大震災被災地の復興・再生に貢献をしているのみならず、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進しており、各国が抱える自然災害の問題を共有・解決に向けてディスカッションもできる重要な専門機関である。特に今回招請元の国である台湾は地震、タイは津波と、各国の問題意識に沿う内容であった。

【実施内容】

■ 展示物の説明

同研究所の1階にある展示物を、アナワット准教授に説明していただきながら見学。また台湾出身の博士課程在学学生アンドリュー様も同行し、台湾からの招聘者からの質問に母国語で対応していただいた。

■ 津波についての説明（プレゼンテーション）

- ・歴史・理学・工学等の学際的な視野で研究している
- ・東日本大震災…過去に起きた津波と重なる
- ・震災のその後の防災・他分野への活用について紹介

■ 地震動体験装置「グラングラン」の体験

- ・震度6強までを体感できる機械「グラングラン」の体験
- 別日に実地見学として、震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪問した。

【参加者からの声】

- ・過去の自国での災害経験から、企業にも見てもらいやすい・アピールできる内容である。
- ・タイでは洪水なども多く、他の災害についても興味深い。